

# イスラマバード日本人学校における国際理解教育 —現地校との交流、伝統・文化の体験活動を通して—

前在パキスタン日本大使館附属イスラマバード日本人学校教諭  
宮城県名取市立愛島小学校教諭 沼澤 栄子

キーワード：イスラム教、伝統文化の体験、現地校との交流、現地理解教育

赴任校の概要（2021年3月31日現在）

学校名・日本語：在パキスタン日本大使館附属イスラマバード日本人学校

学校名・現地表記：Islamabad Japanese School

児童生徒数：7名 小学部5人 中学部2人

HP：現在休止中

## 1. はじめに

イスラマバードは、「イスラム教の都」という意味を持つパキスタンの首都であり、政治機能が集約された計画都市である。そのため、日本の企業などの数が少ない。

イスラマバード日本人学校は、2021年に開校34周年を迎えたが、近年の児童生徒数は10名を下回っている。学年の人数にばらつきがあるため、学校の行事活動等は全校一斉に行っている。異学年同士仲がよく、何事にも協力して取り組むことができる。反面、互いに刺激し合うことが少なく、自分の考えを主張したり、問題を自分たちで話し合っ解決したりするような経験が少ないともいえる。

そこで、児童生徒が自ら興味・関心を持ち、調べ学習等を通して分かったことをまとめ表現する力、さらなる課題や学びに向かう力を高める、体験を重視した学習を充実させることにより、自主性や主体性を育む学習を進めたいと考えた。また、パキスタンの文化や習慣への理解や現地の人々との交流を通して、国際社会へ向けて視野を広げ、未来を担う子どもの育成に努めたいと考え、次のような実践を行った。

## 2. 実践内容

### (1) 現地校との交流

#### ① IJS Day Festival

イスラマバード日本人学校では、年に2~3回程度、現地の小学校や大学（日本語学科）との交流を行っている。その1つに「**IJS**（Islamabad Japanese School）**Day Festival**」というものがある。現地校の子どもたちや大学生を学校に招待し、日本の文化や伝統、習慣等について紹介し交流を深める活動である。児童生徒は、パキスタン人と直接触れ合い交流することで、パキスタン人に日本のことを知ってもらおう、日本について理解を深めてもらおうと意欲的に取り組むことができる活動である。

私が在勤していた1年目は「日本の学校の様子を伝えよう」というテーマで、学校の登下校の様子から時間割、授業の様子や学校行事等などについて、スライドショーを活用しながら説明したり、実演を加えたりして紹介した。また、校庭でボール運動やチーム対抗リレーなどを行っ

た。パキスタンでは技能教科や情操教育が進んでいないこともあり、日本の学校教育や授業、生活ルールなどに大変関心を持ってくれた。特に、パキスタンの学校に取り入れたいものとして、給食や清掃活動があげられたことに驚いた。

2年目は「祭りだ！わっしょい」をテーマに、日本の伝統的な祭りについて紹介した。会場を紅白幕と提灯で装飾し、祭りの雰囲気を味わってもらえるように工夫した。第1部では、祭りの歴史や様子、和太鼓について紹介し、実際にお囃子に合わせて神輿を担いだり、和太鼓をたたいたりする体験活動を取り入れて行った。第2部では、出店を再現し、的当てや竹とんぼ、魚釣りなどのコーナーを作り実際に体験してもらった。



IJSDay Festival 神輿かつぎを体験

子どもたちは、紹介するために、改めて日本について調べ直したり、確認したりして、日本の良さを伝えよう意欲的に取り組むことができた。また、英語で説明する文章を考えたり、コミュニケーションをとるために英会話の練習をしたり、現地の英語教師と熱心に取り組んでいた。小学校1年生から中学校3年生まで幅広い学年層で、一緒に準備や発表の練習をしたりするのはかなり工夫が必要であった。しかし、子どもたちが主体となってどんな交流会にしたいのかを考え、試行錯誤しながら協力して進めることができた。フィナーレの和太鼓演奏が終わったときに大きな拍手と歓声をもたらしたときには成し遂げた喜びと達成感を子どもたちは味わうことができた。成功体験によって、仲間との絆や努力の大切さを学ぶことができ、自信につなげることができた。

現地校の方からもパキスタンの学校は、午前中におやつを食べる「チャットタイム」というものがあることを教えてもらい、誰かを招いたときには、お菓子や料理を振る舞い、一緒に食べて交流するという風習があることを教えてもらった。また、NUML(National University Modern Language)の学生はパキスタンの伝統楽器ラバープを演奏して下さり、民族ダンスを披露してくれたり、昔から伝わる手遊び歌などを教えてもらったりした。

子どもたちが主体的に活動に取り組み、一生懸命英語を使って思いを伝えようとしたり、相手の話を理解しようとしたりする様子が見られた。現地校との交流は、互いの文化交流の場としても友好的な取り組みになった。



日本の和太鼓「こどもばやし」を披露

## ②National University Modern Language (NUML) 訪問

NUMLを訪問し、大学生との交流会を行った。パキスタンの大学構内を案内してもらい、モスク(イスラム教のお祈りの講堂)や食堂などを見学し、大学の様子を知ることができた。大学で日

本語を学んでいる学生と一緒に大学の日本語の授業にも参加させてもらい、貴重な経験ができた。交流会では、日本人学校の児童生徒から大学生に、習字や折り紙、箸の使い方を紹介し、実践（体験活動）してもらった。大学生からは、パキスタンのそれぞれの州に伝わる民族の踊りやその特徴を教えていただき、音楽に合わせて、一緒に踊り楽しむことができた。



NIMLの学生さんが習字に挑戦！

遠い異国の地で日本に興味関心を持って学んでいる大学生がたくさんいることを知り、驚きと共に喜びを感じていた。また、年齢に関係なく、働きながら勉学に励む学生の姿を目の当たりにし、広い視野を持って常に学んでいく気持ちを持ち続ける大切さを感じていたようであった。

## (2) パキスタンの伝統・文化に触れる

### ① パキスタンの布地で浴衣を作るプロジェクト

パキスタンには、パキスタン特有の色や柄の布地が豊富にある。このパキスタンの布地で日本の浴衣を作り、日本人会主催の盆踊り大会にそれを着て参加しようという、パキスタンと日本のコラボ企画を実践した。裁縫の指導には、パキスタンで貧困層（キャンプで暮らす）の女性に裁縫や職業訓練をボランティアで行ったり、教育を受けていない女性の自立やキャンプ地の人々の生活を支援したりしている方（女性）を招き、教えていただいた。これは、パキスタンの裁縫技術を知るだけでなく、パキスタンの社会情勢を知ることにもなり、そういう社会の中で努力し活躍している方と出会ったりしたことは、子どもたちにとっても刺激的で勉強になったようだった。

また、実際に手作りの浴衣を着て盆踊り大会に参加し、やぐらの上で盆踊りを披露することができた。

### ② デコトラアートペインティング体験

パキスタンには「デコトラ」と呼ばれるきれいにペインティングされ、たくさんの装飾品を付けたダンプトラックが有名である。宗教的な意味合いを持つペインティングが施され、日本にはないダンプトラックへの愛着を持っている。その製造現場を見学に行った。日本であれば機械化されている作業も、パキスタンでは手作業で行われており、それぞれの工程の職人が働いている様子を見ることができた。また、パキスタンの芸術アートのペインティング体験にも挑戦した。ペインティング職人の実演を見せていただいたり、実際にパキスタン独特の鳥や花、模様など色鮮やかに描く方法を教えていただいたりして、伝統工芸品作りを行った。本物の職人技を間近で見たり触れたりすることで、さらにパキスタン文化に関心を持ち、芸術や歴史が人々によって大切に受け継がれている素晴らしさを知ることができたようだった。



デコトラに乗車

### ③ ペーパーミラクルズ見学

「ペーパーミラクルズ」とは、パキスタンの大地震で被災した女性の自立を支援する会社で日本人の女性が経営している。古紙を利用したアクセサリー作りやビニールやフラッグを再利用した

バック等は、今やパキスタンの環境問題にも関連した事業として高く評価されている。実際に作品を制作している様子を見学させていただき、ビーズ作り体験もさせていただいた。1人の日本人がパキスタンの人々を助けたい、役に立ちたいという気持ちで努力した結果、多くのパキスタン人の女性を支援する企業へと発展したことを知り、子どもたちは勇気をもらうことができた。また、平和に暮らしていることへの感謝の気持ちを持つことができた。

### 3. おわりに

日本では、パキスタンについての情報はとても限られており、どちらかというと危険なイメージが強いように思う。初めてパキスタンを訪れる人（子どもたち）は、日本との考え方や感覚の違いにきっと驚くだろう。しかし、実際に暮らしてみると、人間の順応力は素晴らしいもので、1日5回のお祈りの前に街中に大音量で流れるアザーンが心地よいものになり、ゆったりと流れる時間に心が落ち着くようになる。

3年間の実践を通して、子どもたちと共に私自身も大変貴重な経験をすることができた。子どもたちには、実際に自分の目で見て感じてほしい、考えてほしいという思いで進めてきた。異国（パキスタン）の文化や伝統を知り、人々のあたたかさに触れることができた。貧困層の生活を支援するために努力している人々や日本とパキスタンの友好を深めるために活躍している人との出会い等々。自らの体験を通して一人ひとりが多くの学びがあったと思う。広い視野で国際社会を見る力、さまざまな考え方を受け入れる力、そして自分の考えを持ち実行していく力と勇気を育むことができたのではないか。

私自身もパキスタンで学んだことを生かし、日本でも未来を担う子どもたちの生きる力を育む教育活動に努めていきたい。このような素晴らしい機会をいただいたことに感謝したいと思う。